

一般廃棄物減量等推進審議会資料

令和6年2月7日

千代田清掃事務所

千代田区のごみの現状についてⅡ (家庭系ごみ組成分析)

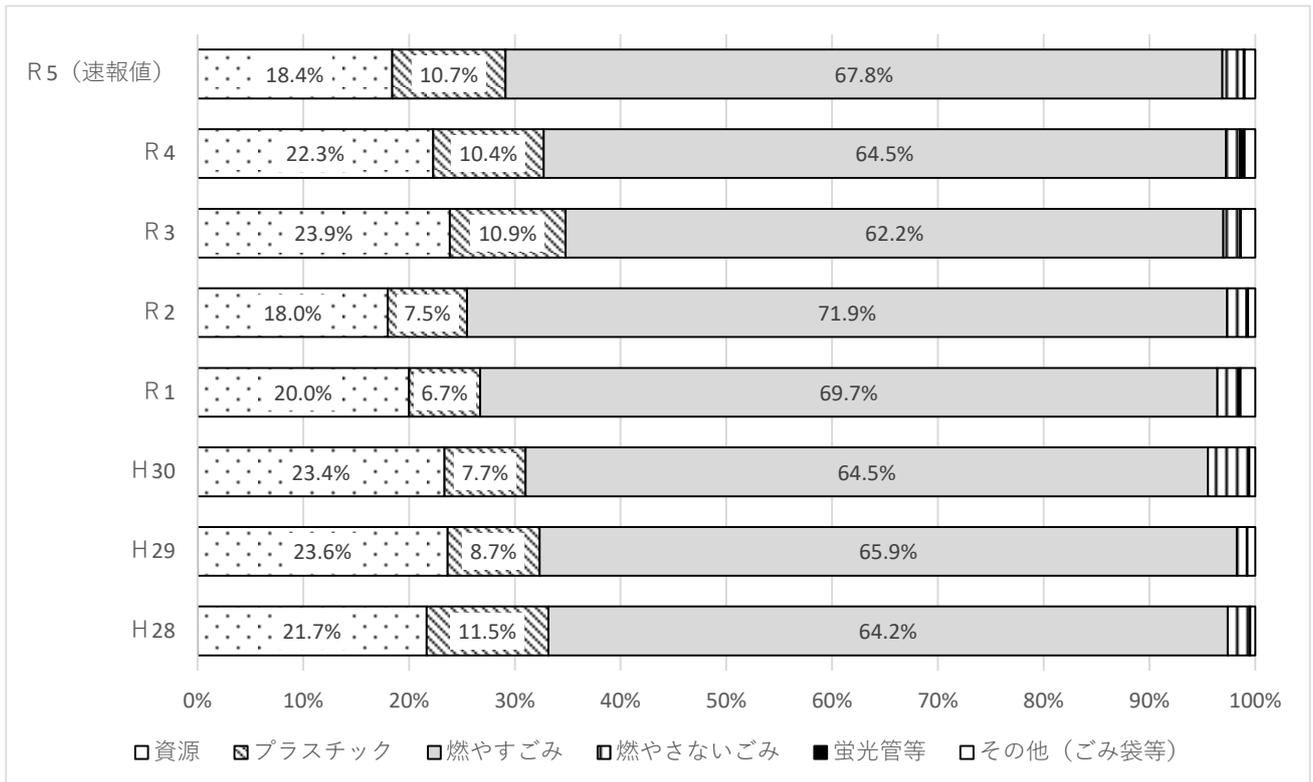
目次

1.燃やすごみの組成.....	1
(1)燃やすごみの組成経年変化.....	1
(2)集合住宅地域における燃やすごみの組成状況(令和5年度).....	2
(3)燃やすごみの組成の周辺区との比較.....	3
(4)集合住宅地域における燃やすごみの組成状況の港区との比較.....	4
(5)食品ロス.....	5
(6)まとめ.....	5

1.燃やすごみの組成

(1)燃やすごみの組成経年変化

平成28年度から令和5年度(速報値)までの燃えるごみの組成をみると、適正に分別されている割合は、令和2年度までは増加傾向にあり、令和2年度は7割を超えていましたが、令和3年度に適正分別率は大きく減少しました。特に紙類の割合の増加が顕著であり、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、テレワーク等が増えたことが影響していることが推測されます。しかしながら、以降は再び適正分別率は増加傾向で推移しています。



資料:ごみ・資源の組成分析調査報告書(千代田区)

図1-1 燃やすごみ組成の推移

表1-1 燃やすごみ組成の推移(詳細)

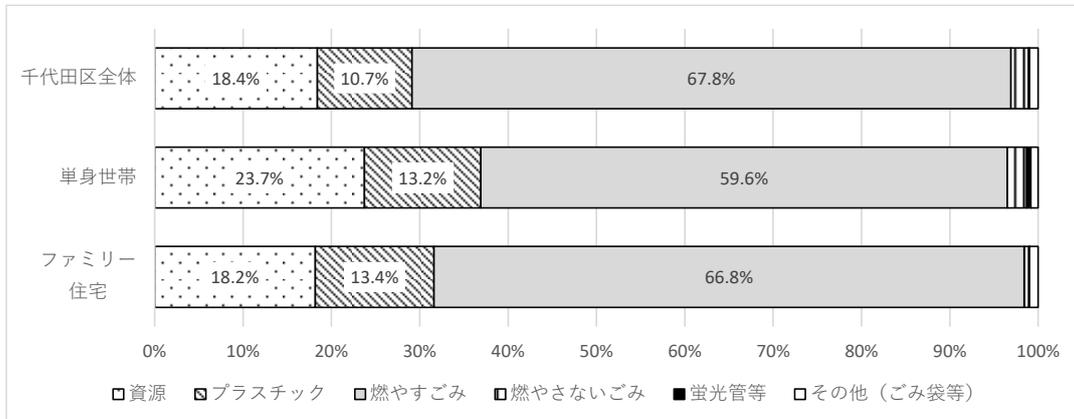
可燃ごみ(割合)		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5 (速報値)
資源	紙類	20.8%	22.6%	21.7%	19.6%	17.4%	23.1%	21.2%	17.6%
	飲食用缶	0.3%	0.4%	0.8%	0.1%	0.1%	0.2%	0.3%	0.1%
	飲食用びん	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%
	飲食用ペットボトル	0.5%	0.6%	0.5%	0.1%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%
プラ	容器包装	7.3%	6.5%	4.3%	3.7%	5.3%	8.2%	7.3%	7.8%
	容器包装以外	4.2%	2.2%	3.3%	3.0%	2.2%	2.8%	3.1%	2.9%
燃やすごみ	厨芥	30.5%	30.7%	28.3%	32.9%	29.7%	24.3%	27.1%	23.6%
	紙類	15.1%	14.0%	14.9%	17.6%	23.2%	17.4%	17.2%	23.5%
	繊維	5.7%	4.7%	5.9%	8.0%	2.3%	3.4%	3.7%	4.4%
	草木	4.3%	3.7%	6.7%	2.8%	2.4%	4.4%	3.2%	3.1%
	ゴム類	0.0%	0.2%	0.6%	0.3%	0.8%	1.0%	0.9%	0.6%
	皮革	1.4%	0.8%	0.8%	0.1%	0.3%	0.1%	0.3%	0.1%
	プラスチック(汚れあり)	2.7%	3.1%	3.8%	6.2%	6.4%	4.9%	4.3%	4.7%
その他可燃物	4.5%	8.7%	3.6%	1.8%	6.9%	6.7%	7.7%	7.8%	
燃やさないごみ	金属	0.3%	0.3%	0.5%	0.1%	0.5%	0.2%	0.3%	0.2%
	ガラス	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	陶磁器・石	0.4%	0.4%	0.3%	1.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
	小型家電製品	0.4%	0.1%	0.3%	0.0%	0.8%	0.2%	0.5%	0.0%
	複合製品	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	1.0%	0.3%	0.9%
	その他不燃物	0.8%	0.1%	2.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.5%
蛍光管等	蛍光管・電球	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
	電球(電球型、省エネ型、LED型)	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	カセットボンバ・スプレー缶	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	ライター	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	水銀体温計・血圧計	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
粗大ごみ	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	
その他(ごみ袋等)	0.5%	0.7%	0.5%	0.7%	0.7%	0.9%	1.0%	1.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

適正分別物	64.7%	66.6%	65.0%	70.4%	72.5%	63.1%	65.5%	68.8%
分別不適物	35.3%	33.4%	35.0%	29.6%	27.5%	36.9%	34.5%	31.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2)集合住宅地域における燃やすごみの組成状況(令和5年度)

令和5年度の組成分析調査では、集合住宅における分別状況を調査しています。本調査では、ファミリー世帯地域と単身世帯地域の集合住宅での調査を行っているため、区全体との比較を行いました。

適正分別率に関しては、ファミリー住宅に関しては区全体と大きく変わりはないが、単身世帯に関しては適正分別率が6割を下回る結果となっています。また、単身世帯は「資源」が混入している割合が高く、「プラスチック」に関しては、単身世帯、ファミリー世帯ともに全体を上回る混入率となっています。



資料:ごみ・資源の組成分析調査報告書(千代田区)

図1-2 集合住宅における燃やすごみ組成(令和5年度)

(3)燃やすごみの組成の周辺区との比較

本区の燃やすごみの組成状況を客観的に把握するため、周辺・類似区(港区【R4年度】、中央区【R1年度】、品川区【R3年度】、新宿区【R3年度】)と比較をしました。

比較をする際、各区の分別区分を考慮する必要がありますので、表1-2に各区の分別区分を示します。

表1-2 各区の分別区分

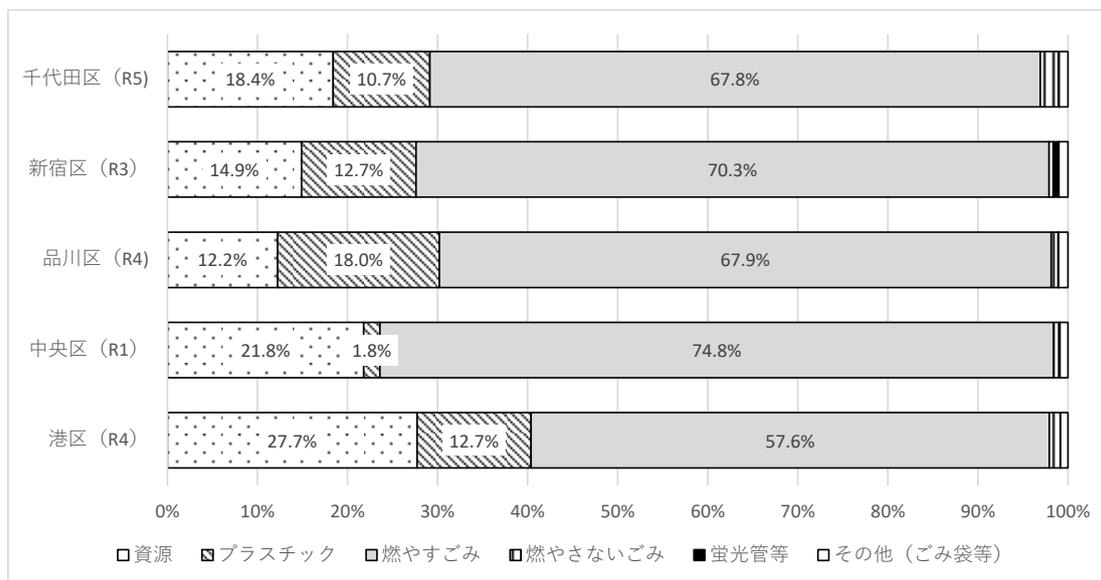
収集区分	千代田区	港区	中央区	品川区	新宿区
資源(古紙、びん、かんペットボトル)	○	○	○	○※1	○※1※2
プラスチック(容器包装プラ、製品プラ)	○	○	○※1	○※1	○※1※2
燃やすごみ	○	○	○	○	○
燃やさないごみ	○	○	○	○	○
蛍光管等(蛍光管、スプレー缶、電池等)	○	○	○	○	○
粗大ごみ	○	○	○	○	○

※1 製品プラは燃やすごみ

※2 R6.4月～製品プラも資源として回収

図1-3に各区別の燃やすごみ組成分析調査結果を示しています。なお、区分に関しては、各区の詳細な調査結果から、本区の区分に再編成しているため、各区が公表している数字と合わない場合もあります。また、中央区に関しては細分類表が公表されていないため、参考値として表示しています。

適正分別率をみると、本区は67.8%となっており、港区の57.6%よりは高くなっていますが、新宿区と品川区とほぼ同数となっています。また、プラスチックに関しては、製品プラの回収を実施していない新宿や品川区より混入率は低くなっており、製品プラの回収を実施している港区よりも低い混入率となっています。一方、資源の混入率に関しては、新宿区や品川区より高い混入率となっています。



※中央区の製品プラは可燃ごみに分類されており、細分類表がないため、区分不能

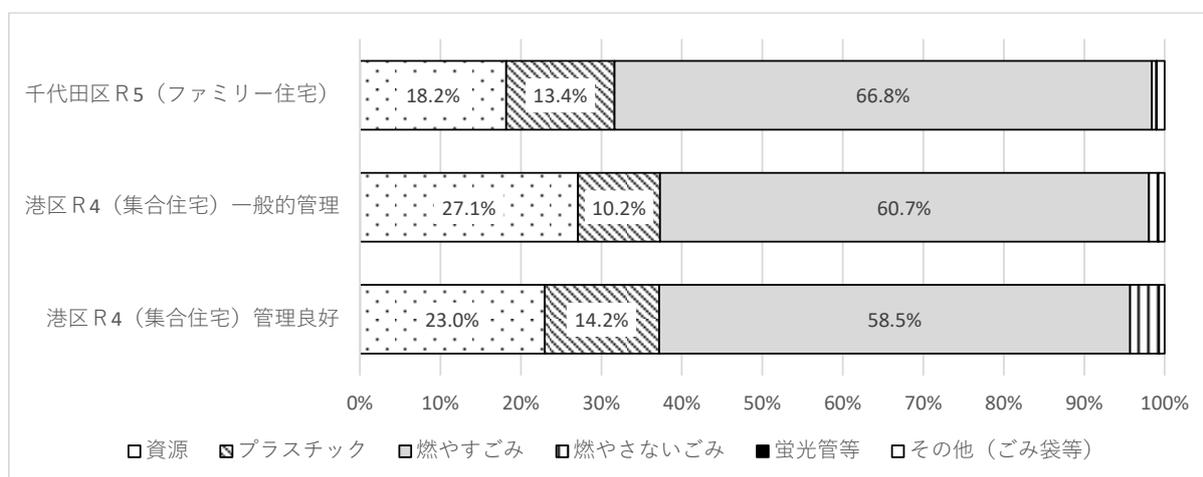
資料:各区のHPに公表されている組成分析調査報告書

図1-3 区別の燃やすごみ組成

(4)集合住宅地域における燃やすごみの組成状況の港区との比較

(3)で示した区のうち、港区は本区と同様に集合住宅における組成調査を実施していますので、比較しました。なお、港区の調査は、集合住宅(ファミリー住宅)を一般的管理と管理良好(排出状況が比較的良好と思われる集合住宅)の2形態に分けて調査しています。

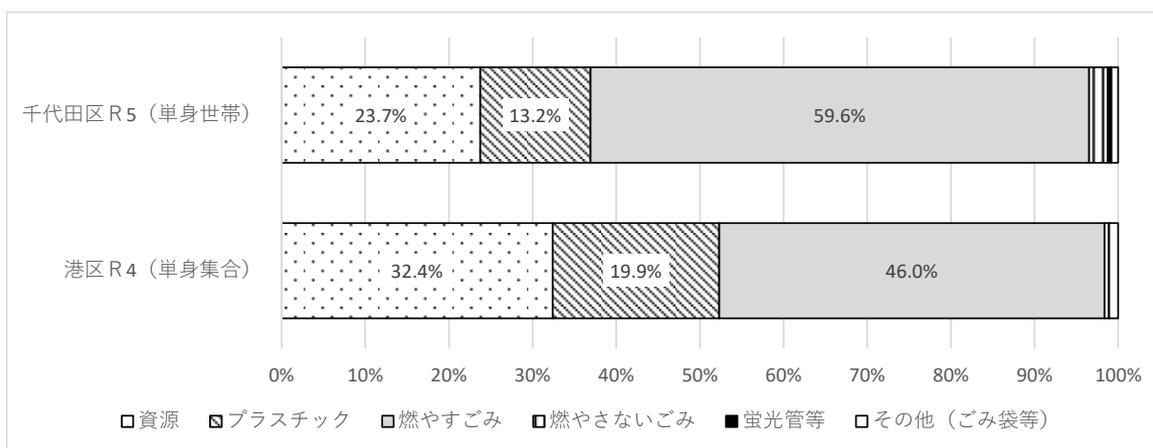
本区と港区を比較すると、適正分別率は、本区の方が高くなっており、資源混入率も低くなっています。一方、プラスチック混入率は港区の一般管理集合住宅よりも高くなっています。



資料:各区の組成分析調査報告書

図1-4 集合住宅(ファミリー世帯)における燃やすごみの組成

また、単身世帯が多い集合住宅をみると、適正分別率は、本区の方が高くなっており、資源混入率及びプラスチック混入率も低くなっています。



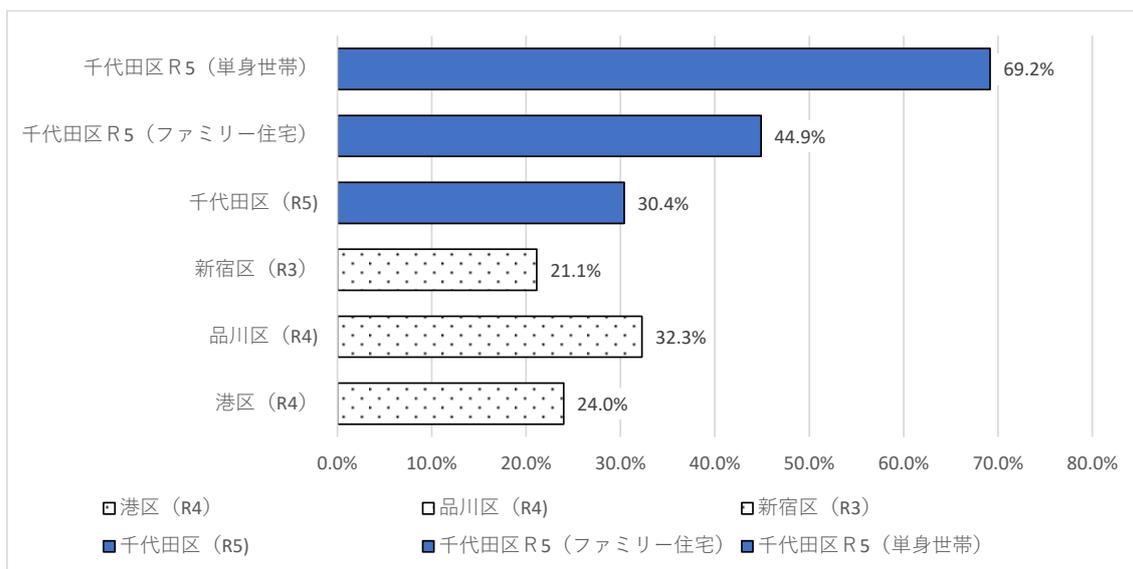
資料:各区の組成分析調査報告書

図1-5 集合住宅(単身世帯)における燃やすごみの組成

(5)食品ロス

組成調査から、厨芥類に占める食品ロス(直接廃棄、食べ残し)の割合をみると、本区全体では30.4%となっているが、集合住宅では割合が大きく上がり、ファミリー住宅で44.9%、単身世帯に関しては69.2%と約7割が食品ロスとなっています。

また、周辺・類似区(港区【R4年度】、品川区【R3年度】、新宿区【R3年度】)と比較したところ、新宿区(21.1%)や港区(24.0%)よりも高い割合となっています。



資料:各区の組成分析調査報告書

図1-6 厨芥類に占める食品ロス(直接廃棄、食べ残し)の割合

(6)まとめ

本区の燃やすごみの適正分別率は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時分別率は下がりましたが徐々に増加傾向にあります。しかし、本区の人口の多くを占める集合住宅での結果をみると、下記の課題があると考えられます。

- ・集合住宅(ファミリー世帯、単身世帯ともに)におけるプラスチックの分別強化
- ・集合住宅(単身世帯)における資源の分別強化
- ・集合住宅(ファミリー世帯、単身世帯ともに)における食品ロスの削減